

出題意図

英語：

各専攻において研究を進める上で必要な英語の読解力を有しているかを判断するために、英語の語彙力、文法力、理解力を総合的に評価する。具体的には、各専攻に関わる内容の 300 語から 500 語程度の英文を示し、英和辞書を用いて、全文和訳をさせる問題を出題する。

小論文：

各専攻において研究を進める上で必要な知識と能力を有し、博士論文をまとめる潜在能力を有しているかを判断するために、理解力、分析力、論理的思考力、表現力を評価する。具体的には、それぞれの分野における現代的課題を提示し、その課題について、1000 字程度で意見を論じさせる問題を出題する。

口述試験：

研究計画等に基づき行う。

合否判定基準

英語、小論文、及び口述試験に、それぞれ合格最低基準を定める。

英語、小論文、及び口述試験の結果を総合的に評価して、合否判定を行う。

総合社会情報研究科	受験番号		ふりがな	
総合社会情報 専攻			氏 名	

博士後期課程 試 験 問 題 日本大学大学院総合社会情報研究科

試 験 科 目 名	施 行 年 月 日
小 論 文	令和 8 年 2 月 2 1 日（10 時 50 分より）

次の問題（１）（２）（３）から一つを選び、日本語 1,000 字程度で解答しなさい。なお、解答用紙の冒頭には、選んだ問題番号を必ず明記しなさい。

- （１）最近の日本社会では、少子高齢化を要因として、生産年齢人口の低下が大きな課題となっています。しかし、その一方で、2025 年平均の日本の労働力人口（15 歳以上の働く意欲がある人）は、前年比 47 万人増の 7004 万人となり、比較可能な 1953 年以降で初めて 7000 万人を突破しています。この労働市場における多様化が進んでいるという状況に対し、日本社会はどのように対処すべきと考えますか。具体的な事例を踏まえたうえで、各自が専攻する学問分野の知見を活用して論じてください。
- （２）2025 年 12 月に、政府が中長期の在留外国人が日本語や日本の制度などを学ぶためのプログラムを創設する検討に入ったことが報道されました。在留外国人に対し、日本語や日本の文化・社会等の学習を国が支援し、試験を課すことも考えられます。今後の日本において、このようなプログラムは必要か、必要であるならば、どのようなプログラムが望ましいか、あなたの意見を論じてください。
- （３）ACP（Advance Care Planning、日本語で「人生会議」と厚生労働省が決定しました）は、人生の終末期など、もしものときのために、医療やケアについて考え、家族や医療・ケアチームなどと、繰り返し話し合い共有する取り組みです。ご自身およびご家族が今後の医療やケアに関して ACP を踏まえ話しあう際に、気を付けたいことを対象がご自身の場合およびご家族の場合に分けて、ACP に対する考えや倫理面も考慮しつつ論じてください。

解答は解答用紙に記入すること。

総合社会情報研究科	受験番号		ふりがな	
総合社会情報 専攻			氏 名	

博士後期課程 試 験 問 題 日本大学大学院総合社会情報研究科

試 験 科 目 名	施 行 年 月 日
英 語	令和 8 年 2 月 2 1 日（9 時 2 0 分より）

次の問題【1】～【3】から一つを選び、解答しなさい。なお、解答用紙の冒頭には、選んだ問題番号を必ず明記しなさい。

【1】 以下の英文を日本語訳してください。

Reflecting on the changes in science and technology in our daily lives, the Showa era, following the postwar reconstruction of livelihoods and economic recovery, saw the introduction of technologies and technological innovations. Against the backdrop of rapid economic growth and rising incomes accompanying these developments, the standard of living of the people became increasingly prosperous. Around this time, the so-called “three sacred treasures” of household appliances, the black-and-white television, electric refrigerator, and electric washing machine, also became widespread. In the Heisei era, advancements in semiconductors and telecommunications, together with the commercialization of the internet, led to the rapid spread of mobile phones and personal computers, bringing the world closer together. Amid the increase in dual-income households, time-saving appliances such as washer-dryers and robotic vacuum cleaners also became widespread, making people’s lives more convenient. In the Reiwa era, the utilization of AI has rapidly become widespread, bringing about significant changes in social structures and lifestyles. In both academia and industry, science and technology have played important and multifaceted roles in pioneering the future, responding to the demands and changes of the times.

In the half-century since the end of World War II, science and technology have been a driving force in creating a more prosperous life. The contributions of science and technology were particularly significant during the immediate postwar reconstruction period, especially in rebuilding livelihoods through increased food production and improvements in public health and sanitation, as well as in supporting the economic recovery and independence of key industries centered on steel and coal. Subsequently, Japan proactively introduced technologies from overseas, applied new knowledge and improvements to achieve technological innovations. As a result, Japan succeeded in developing high-quality products that gained international recognition, which in turn drove rapid economic growth and enabled the nation to become the world’s second-largest economy.

【出典】Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (Japan), White Paper on Science, Technology, and Innovation 2025.

(裏面にも問題があります。)

解答は解答用紙に記入すること。

令和8年度 博士後期課程
文化情報分野 入試
英語

著作権の都合上公開できません。
問題文は下掲書物より引用しています。

【著者名】 Eco Umberto

【書名・論文名】 Mouse or Rat?

【発行体】 Phoenix Literature

【発行年】 2003

令和8年度 博士後期課程
人間科学分野 入試
英語

著作権の都合上公開できません。
問題文は下掲書物より引用しています。

【著者名】

Susan Nolen-Hoeksema, and more

【書名・論文名】

ATKINSON & HILGARD'S
INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY

【発行体】

American Psychological Association

【発行年】 2020